

真宗寺

寺報 竹の子



平成二十九年 春号

住職挨拶

先ずは寺族を代表しまして、昨年大変お世話になりました御礼と共に今年も宜しくお願いしつつ御挨拶申し上げます。

今年で私も入寺して十五年、真宗寺二十六代住職となって十年の月日が経ちました。

真宗寺御本尊様の元で沢山の御門徒の皆様と出逢い沢山の方をお送りさせて頂きました。

いつもそこにはお念仏があり、出会いやご縁に感謝し念仏。お送りの際も、ご家族の方々と御一緒に出逢えた事に感謝し念仏させて頂いた日々。

念仏の元、これからも皆さんと報恩感謝を忘れずに真宗寺住職の道を歩んでゆきます。

長崎山 真宗寺 第二十六世 住職 長崎 寿秀

■阿弥陀経について

法事や月参りの時、我々僧侶が読むお経の一つ『ぶつせつあみだきょう仏説阿弥陀経』をご存知でしょうか。

聞くだけでは分かりにくいので、今回は現代語に訳して阿弥陀経の意味を紐解いてみましょう。

『仏説阿弥陀経』とは、「お釈迦様が説かれた阿弥陀如来の教え」という意味です。

お釈迦様が現在のインド北東部、ネパール国境近くに有った、

舎衛国の祇樹給孤独園ぎじゆきつこどくおん（祇園精舎）に滞在していた頃のお話です。

舎利弗しゃりほつや目犍連もつけんれんなどの弟子や大勢の人達がお釈迦様の教えを聞こうと集まっていました。

お釈迦様が舎利弗に告げました。

「ここより西の方、十万億の仏土を過ぎた所に、一つの世界がある。その名を極楽という。そこには阿弥陀仏がおられ、今現在も法を説いておられる。舎利弗よ、なぜその世界が極楽と言われるのか。その世界にいる人は、様々な苦しみをうけずに、様々な樂のみを受けている。そのため極楽と名付けるのである。」

このように話し始めたお釈迦様は、極楽の様子を語り始めます。「極楽には、七重の石垣と七重の並木があり、それらは鈴の付いた網によつて飾られている。」

「極楽の大地は金・銀・瑠璃の寶石によつて飾られ、輝いている。」
「極楽には、七つの宝で出来た池があり、その水は八つの功德に満ちている。」

「池の中に大きな蓮華が咲いており、青い蓮華は青く、黄色い蓮華は黄色く、赤い蓮華は赤く、白い蓮華は白色の光を放ち、清らかな香りが漂っている。」

「極楽では、常に心地の良い音楽がながれ、華が雨のように降る。」
「びやつこう白鵠・おうむ孔雀・おうむ鸚鵡・かりようびんが舍利・おんぼん迦陵頻伽の鳥の声を聴くものは、皆

等しく仏・法・僧に帰依する心を持つ事ができる。」
極楽というすばらしい世界が既にあることを、お釈迦様は人々に語りました。

次にお釈迦様は、

「舎利弗よ、阿弥陀様から出ている法の光は、はかり知ることの

出来ない程の光を十方に放ち、私達を照らしている。その光を妨げるものはない。又、阿弥陀様と極楽に居る人の寿命は、これもはかり知ることの出来ない程に長い。」

「極楽に往生した人達は、すべて等しく仏の地位に至る。」

「舍利弗よ、自力で極楽に往生しようと思ひ、少々の善い行い、徳を積んでもそれは極めて難しい。」

阿弥陀様の教えを聞き、そのお名前を一日でも七日でも称え、信心を保ち続けたならば、命が終る瞬間に、阿弥陀様が聖衆と共に来迎し、極楽に往生することが出来るであろう。」

「舍利弗よ、私は以上の理を知っているから、このように語るのである。この言葉を聞いたものが、極楽に生まれたいと願ひが起ころうよう勧めているのである。」

阿弥陀様の功徳を称賛し、東方・南方・西方・北方・下方・上方の世界の諸仏の名を掲げ、それぞれが阿弥陀様とその浄土の働きを讃嘆し、全ての人に向かって阿弥陀様への帰依を勧め、帰依した者は一切の諸仏によって常に憐憫され、加護されているということ説かれました。

最後にお釈迦様は、

「舍利弗よ、私が諸仏の功徳について讃嘆したように、諸仏もまた私の功徳について賛嘆している。この娑婆国土しやばの五濁悪世ごじよくあくせの中において、全ての人の為に悟りを開き、阿弥陀様の法を説いた。これは私にとって非常に難しいことであった。」

お釈迦様が話し終えた後、全ての人々は、阿弥陀様の慈悲に歓喜し、信心して合掌し、自分たちの生活に戻っていききました。以上が阿弥陀経の訳となります。

拙い訳ではありますが、聞法生活の一助となれば幸いです。

長谷部 秀朗

■真宗寺年間行事のご案内

定例開法会

三月二十五日(土)、五月二十五日(木)、
六月二十五日(日)、七月二十五日(火)、
八月二十五日(金)、十月二十五日(水)、
午前十時半より

※本堂にて講師の先生が皆様に親鸞聖人の教えを分かりやすくお話して下さる会です。

声明会

三月二十五日(土)、五月二十五日(木)、
六月二十五日(日)、七月二十五日(火)、
八月二十五日(金)、十月二十五日(水)、
午後二時より

※住職が皆様にお経を分かりやすく説明し、一緒にお経を読みながら皆様と触れ合う会です。

蓮如忌法要

四月二十五日(火) 十時より

住職の怪談話と肝試し

八月お盆以降に予定 午後六時より 会場お寺にて

秋彼岸法要

九月二十三日(土) 十時半より

報恩講

十一月十一日(土) 十時より

除夜の鐘つき

十二月三十一日(日) 十一時四十五分頃より

※無料で、お雑煮の炊き出しがあります。